

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成23年11月11日

**【四半期会計期間】** 第16期第2四半期(自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)

**【会社名】** 株式会社 f o n f u n

**【英訳名】** f o n f u n c o r p o r a t i o n

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 林 和之

**【本店の所在の場所】** 東京都杉並区上高井戸一丁目8番17号

**【電話番号】** 03(5357)0303

**【事務連絡者氏名】** 取締役執行役員経営管理部部長 八田 修三

**【最寄りの連絡場所】** 東京都杉並区上高井戸一丁目8番17号

**【電話番号】** 03(5357)0303

**【事務連絡者氏名】** 取締役執行役員経営管理部部長 八田 修三

**【縦覧に供する場所】** 株式会社大阪証券取引所  
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第15期 第2四半期 連結累計期間		第16期 第2四半期 連結累計期間		第15期	
		自 至	平成22年4月1日 平成22年9月30日	自 至	平成23年4月1日 平成23年9月30日	自 至	平成22年4月1日 平成23年3月31日
売上高	(千円)		530,583		394,085		1,014,298
経常利益	(千円)		53,774		35,067		74,143
四半期純利益 又は当期純損失( )	(千円)		41,177		90,213		134,695
四半期包括利益又は包括利益	(千円)		42,767		81,725		144,776
純資産額	(千円)		359,313		252,959		171,594
総資産額	(千円)		920,627		890,101		846,042
1株当たり四半期純利益金額 又は1株当たり当期純損失金額 ( )	(円)		15.71		34.42		51.38
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)		15.49				
自己資本比率	(%)		35.4		27.1		17.8
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)		54,772		113,367		47,851
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)		38,131		7,241		72,020
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)		3,248		17,875		60,174
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)		197,580		316,430		213,696

回次		第15期 第2四半期 連結会計期間		第16期 第2四半期 連結会計期間	
		自 至	平成22年7月1日 平成22年9月30日	自 至	平成23年7月1日 平成23年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)		9.32		4.01

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第15期第2四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。
4. 第15期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額につきましては、潜在株式は存在しますが、1株当たり当期純損失のため記載しておりません。
5. 第16期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額につきましては、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2 【事業の内容】

当社グループは、前連結会計年度においてテレマーケティング事業を大幅に縮小したことに伴い、当第1四半期連結累計期間より、リモートメール事業、コンテンツ事業、その他の事業の3つのセグメント情報の区分に関する事業を営むこととなりました。

なお、主要な関係会社については異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」からの重要な変更があった事項は以下の通りであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 取引先からの資本・業務提携の解消の要望

当社は、平成23年7月14日付で、ある取引先より、内容証明郵便にて要望書の提出を受け、処々の資本、及び業務上の提携関係を解消したい旨を求められております。また、当該取引先は、人的関係についても解消したい意向を表明しております。

当社といたしましては、当該要望について、適切に対応する方針であり、平成23年7月22日付で内容証明郵便にて回答書を送達しております。また、当社グループが、当該取引先グループに対して有している債権の支払いについても求めております。

当該交渉に関する見通しについては、慎重に交渉を進めておりますが、不明であります。また、当該取引先の要望の一部については、四半期連結貸借対照表において引当金を計上しておりますが、当社の業績に与える影響は不明であります。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、新たに決定又は締結した経営上の重要な契約等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、東日本大震災や福島第一原子力発電所事故の影響による、生産面を中心とした下押し圧力が依然強い状態にあるものの、震災で傷んだサプライチェーンも徐々に復旧し始め、復興に向けての動きも一部で見られます。しかしながら、その勢いは強くなく、依然として景気の先行きには不透明感がぬぐえない状況です。海外に目を向けても、ギリシャを始めとするユーロ圏の一部の国の不安定な財政状況や北アフリカ諸国の民主化など、国際的にも不確実性が増す中で円高が進んでおり輸出や国内民間需要にも影響を及ぼしております。

当社を取り巻く環境に関しては、業界再編、ビジネスモデルの変化と大きな変革期を迎えております。携帯電話市場に関しては、平成23年9月末における携帯電話・PHSの契約数は127,281,000件（前年同月比6.8%増 社団法人電気通信事業者協会調べ）であり、携帯契約総数の大幅な拡大が望めない中、iPhoneやAndroid端末等のスマートフォンの人気による買い換え需要は増大しており、携帯通信事業各社も、コンシューマー向け戦略では、スマートフォンへ注力した戦略をとっております。コンテンツ市場に関しては、引き続きSNS利用者を対象にした無料ゲームやソーシャルゲームの人気が高く、その利用者を対象にした有料コンテンツ提供や広告配信といったビジネスモデルが好調であり、またスマートフォン上で展開されるコンテンツ配信・販売プラットフォームが新たな市場として注目されております。

このような状況の下、当社グループは、「営業キャッシュ・フロー重視」「事業ドメインを明確にして経営資源を集約する」経営方針のもと、当第2四半期連結会計期間では、スリム化した体制で、当社の強みである既存事業の収益を維持しつつ、主力サービスであるリモートメールをスマートフォン対応とし提供を始めるなど、新たなサービスの開発・提供を実施いたしました。

当社グループの各セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### リモートメール事業

当第2四半期累計期間では「リモートメール」の個人版サービス・法人版サービスともにスマートフォン向けの正式サービスを提供できるようになっております。

「リモートメール」個人版サービスにつきましては、既存利用者の利用継続を第一目的に、他社サービスに対して優位性のある使い勝手のよさをさらに向上させる改善を継続して実施しております。また、既存携帯端末を対象にした携帯電話販売店舗における販促活動は、引き続き強化してまいりました。

「リモートメール」法人版サービスにつきましては、引き続き営業活動を強化し顧客獲得に取り組んでおります。NTTドコモが企業向けソリューションに対して認定するドコモプロサポートプログラムの認定による反響も大きく、順調に契約社数を伸ばしております。

また、光通信グループの携帯電話販売店にて販売している、当社子会社・株式会社FunFusionを販売元とする「モバイル活用パック」も引き続き売りに寄与しております。

上記の結果、リモートメール事業の売上高は361百万円（前年同期比0.04%減）、営業利益は102百万円（前年同期比16.3%減）となりました。

## コンテンツ事業

携帯電話向けコンテンツにつきましては、利用継続率の高い便利・ツール系サービスに絞り、携帯販売店での販促活動を中心に利用者の獲得をしております。

また、iPhone及びAndroid対応コンテンツの開発を積極的に進め、自社提供及び協業モデルでの展開を図っております。

上記の結果、コンテンツ事業の売上高は 28百万円(前年同期比46.5%増)、営業損失は5百万円(前年同期 営業損失9百万円)となりました。

## その他

その他の売上は、主に過去に発売した家庭用ゲーム機向けパッケージソフトのリピーター受注販売によるものであり、売上高は 3百万円、営業損失は0百万円となりました。

前連結会計年度において「リモートメール事業」、「コンテンツ事業」、「テレマーケティング事業」と区分しておりました事業を、テレマーケティング事業の大幅な縮小にともない、第1四半期連結会計期間より、テレマーケティング事業を「その他」に含め、「リモートメール事業」、「コンテンツ事業」に変更しております。

なお、テレマーケティング事業の売上高は0百万円(前年同期144百万円)、営業損失は0百万円(前年同期 営業利益63百万円)であります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高394百万円(前年同期比25.7%減)、営業利益 40百万円(前年同期比23.0%減)、経常利益 35百万円(前年同期比34.8%減)、四半期純利益90百万円(前年同期比119.1%増)となりました。

## (2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は890百万円となり、前連結会計年度末に比べ44百万円の増加となりました。その主な要因は、流動資産における現金及び預金の102百万円の増加、長期未収入金の減少67百万円であります。

負債の部は637百万円となり、前連結会計年度末に比べ37百万円減少しております。主な要因は、不正事件関連損失引当金の減少21百万円、長期借入金の減少14百万円等であります。

純資産は252百万円となり、前連結会計年度末に比べ81百万円の増加となっております。

### (3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という）は、102百万円増加し、316百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は113百万円（前年同四半期連結累計期間は54百万円の収入）となりました。この主な要因は税金等調整前四半期純利益の計上82百万円、減価償却費の計上11百万円、未収入金の減少額64百万円、売上債権の減少11百万円の資金増に対し、不正事件関連損失引当金の減少21百万円、貸倒引当金の減少60百万円等によるものであります。

#### 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果得られた資金は7百万円（前年同四半期連結累計期間は38百万円の支出）となりました。この主な要因は、敷金保証金の回収による収入14百万円、有形固定資産の取得による支出8百万円等によるものであります。

#### 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は17百万円（前年同四半期連結累計期間は3百万円の収入）となりました。この主な要因は、長期借入金の返済による支出11百万円、短期借入金の純減額6百万円によるものであります。

### (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

### (5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費のグループ全体の総額は467千円であります。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,500,000
計	8,500,000

##### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成23年11月11日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	2,661,720	2,661,720	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株 であります。
計	2,661,720	2,661,720		

(注) 「提出日現在発効数」には、平成23年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成23年7月1日～ 平成23年9月30日		2,661,720		2,242,605		636,561

(6) 【大株主の状況】

平成23年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社光通信 代表取締役 重田 康光	東京都豊島区南池袋一丁目16番15号	515,000	19.35
株式会社武蔵野 代表取締役 小山 昇	東京都小金井市東町四丁目33番8号	508,800	19.12
大阪証券金融株式会社 取締役社長 堀田 隆夫	大阪府大阪市中央区北浜二丁目4番6号	132,200	4.97
賀川 正宣	兵庫県神戸市灘区	116,900	4.39
SOCIETE GENERALE BANK AND TRUST, SINGAPORE BRANCH CUST ASSET JAPAN CORPORATE ACCOUNT SCRIPPLESS (常任代理人 香港上海銀行東京 支店)	ONE RAFFLES QUAY 35-01 NORTH TOWER, SINGAPORE 048583	91,900	3.45
橋本 浩之	滋賀県長浜市	25,700	0.97
小日向 範威	東京都港区	21,000	0.79
玉屋 秀貫	東京都世田谷区	21,000	0.79
飯 寿行	東京都世田谷区	21,000	0.79
HSBC PRIVATE BANK (SUISSE) SA HONG KONG BRANCH - CLIENT ACCOUNT (常任代理人 香港上海銀行東京 支店)	C/O HSBC INVESTMENT BANK ASIA LIMITED LEVEL 14, 1 QUEEN'S ROAD CENTRAL HONG KONG	16,100	0.60
計		1,469,600	55.21

(注) 当社は自己株式を40,898株保有しております。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 40,800		株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,591,500	25,915	同上
単元未満株式	普通株式 29,420		同上
発行済株式総数	2,661,720		
総株主の議決権		25,915	

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が500株含まれております。  
また、「議決権の数」の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係わる議決権の数5個が含まれております。

【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社 fonfun	東京都杉並区上高井戸 一丁目8番17号	40,800		40,800	1.54
計		40,800		40,800	1.54

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成23年7月1日から平成23年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、清和監査法人により四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	382,834	485,586
売掛金	199,319	187,609
製品	35	65
短期貸付金	12,535	7,200
未収入金	56,149	29,700
その他	25,489	15,680
貸倒引当金	38,140	44,026
流動資産合計	638,222	681,814
固定資産		
有形固定資産	48,648	44,991
無形固定資産		
ソフトウェア	11,618	8,454
ソフトウェア仮勘定	-	900
その他	499	499
無形固定資産合計	12,118	9,854
投資その他の資産		
投資有価証券	86,001	112,011
関係会社株式	25,381	-
長期貸付金	1,129	5,029
長期未収入金	1,419,569	1,352,397
その他	10,585	12,943
貸倒引当金	1,395,615	1,328,942
投資その他の資産合計	147,052	153,440
固定資産合計	207,819	208,286
資産合計	846,042	890,101
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,133	2,448
短期借入金	317,708	314,760
未払金	84,856	95,860
未払法人税等	4,535	3,776
賞与引当金	2,146	-
偶発損失引当金	59,406	61,284
不正事件関連損失引当金	21,430	-
その他	11,851	5,755
流動負債合計	504,068	483,885

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
<b>固定負債</b>		
長期借入金	151,060	136,180
退職給付引当金	11,752	13,141
その他	7,567	3,935
<b>固定負債合計</b>	<b>170,379</b>	<b>153,256</b>
<b>負債合計</b>	<b>674,447</b>	<b>637,141</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	2,242,605	2,242,605
資本剰余金	636,561	636,561
利益剰余金	2,555,627	2,464,786
自己株式	173,250	173,298
<b>株主資本合計</b>	<b>150,288</b>	<b>241,081</b>
新株予約権	1,148	208
少数株主持分	20,157	11,669
<b>純資産合計</b>	<b>171,594</b>	<b>252,959</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>846,042</b>	<b>890,101</b>

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	530,583	394,085
売上原価	127,042	60,799
売上総利益	403,541	333,285
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	83,463	125,412
販売促進費	2,883	457
支払手数料	76,583	74,807
役員報酬	20,700	9,360
給料及び手当	54,720	41,208
地代家賃	14,289	5,277
貸倒引当金繰入額	40	2,150
その他	98,065	33,980
販売費及び一般管理費合計	350,747	292,654
営業利益	52,793	40,631
営業外収益		
受取利息	1,398	1,620
助成金収入	10,000 <sup>1</sup>	-
その他	1,552	277
営業外収益合計	12,950	1,898
営業外費用		
支払利息	5,830	6,079
支払手数料	3,000 <sup>2</sup>	-
持分法による投資損失	2,086	-
為替差損	26	-
その他	1,024	1,383
営業外費用合計	11,969	7,462
経常利益	53,774	35,067
特別利益		
偶発損失引当金戻入額	-	14,528 <sup>4</sup>
償却債権取立益	2,000	-
子会社清算益	982	-
貸倒引当金戻入額	-	67,509
その他	-	2,475
特別利益合計	2,982	84,513

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
特別損失		
固定資産除却損	922	-
不正事件関連損失	3 12,000	-
偶発損失引当金繰入額	-	5 16,054
業務委託契約解約損	-	5,000
訴訟関連損失	-	9,480
貸倒引当金繰入額	-	6,756
特別損失合計	12,922	37,290
税金等調整前四半期純利益	43,834	82,290
法人税、住民税及び事業税	1,015	565
法人税等調整額	52	-
法人税等合計	1,067	565
少数株主損益調整前四半期純利益	42,767	81,725
少数株主利益又は少数株主損失( )	1,589	8,487
四半期純利益	41,177	90,213

【四半期連結包括利益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	42,767	81,725
四半期包括利益	42,767	81,725
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	41,177	90,213
少数株主に係る四半期包括利益	1,589	8,487

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	43,834	82,290
減価償却費	14,177	11,996
のれん償却額	1,065	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	10,040	60,786
退職給付引当金の増減額(は減少)	2,227	1,388
賞与引当金の増減額(は減少)	210	2,146
不正事件関連損失引当金の増減額(は減少)	-	21,430
偶発損失引当金の増減額(は減少)	-	1,878
受取利息及び受取配当金	1,398	1,620
支払利息	5,830	6,079
持分法による投資損益(は益)	2,086	-
売上債権の増減額(は増加)	31,385	11,709
たな卸資産の増減額(は増加)	52	30
前払費用の増減額(は増加)	10,564	6,995
未払金の増減額(は減少)	7,570	11,003
未払費用の増減額(は減少)	3,797	266
未払消費税等の増減額(は減少)	1,480	5,446
未収入金の増減額(は増加)	-	64,657
仕入債務の増減額(は減少)	2,576	315
その他	13,297	5,671
小計	69,806	112,257
利息及び配当金の受取額	1,367	1,602
利息の支払額	5,900	6,408
法人税等の還付額	-	10,451
法人税等の支払額	10,500	4,535
営業活動によるキャッシュ・フロー	54,772	113,367
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	3,153	8,532
無形固定資産の取得による支出	2,193	1,175
関係会社株式の取得による支出	26,010	-
敷金及び保証金の差入による支出	14,013	-
敷金及び保証金の回収による収入	-	14,013
貸付金の回収による収入	8,738	5,935
定期積金の預入による支出	1,500	3,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	38,131	7,241

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	20,500	6,000
長期借入れによる収入	30,000	-
長期借入金の返済による支出	6,174	11,828
自己株式の取得による支出	77	47
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,248	17,875
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	19,889	102,733
現金及び現金同等物の期首残高	177,690	213,696
現金及び現金同等物の四半期末残高	197,580	316,430

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	
(1) 連結の範囲の重要な変更	該当事項はありません。
(2) 持分法適用の範囲の重要な変更	リプラス株式会社は、平成23年6月10日の第三者割当増資及び無担保転換社債型新株予約権付社債の行使により持分比率が低下したため、第1四半期連結累計期間より持分法適用の範囲から除外しております。

【会計方針の変更等】

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【追加情報】

当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	
第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。	

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
<p>1 助成金収入 全額中小企業緊急雇用安定助成金であります。</p> <p>2 支払手数料 全額中小企業緊急雇用安定助成金に対するコンサルティング費用であります。</p> <p>3 不正事件関連損失 当社取締役による不正資金流出に係る損失であります。</p>	<p>4 偶発損失引当金戻入額 販売促進契約解除に伴う一括精算金の見積もり額の修正であります。</p> <p>5 偶発損失引当金繰入額 得意先から求められている過年度の売上代金の返還請求額、及び取引先から求められている損害賠償請求額に係る損失見積額であります。</p>

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)												
<p>現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係</p> <table> <tr> <td>現金及び預金</td> <td>351,700千円</td> </tr> <tr> <td>拘束性預金</td> <td>154,120千円</td> </tr> <tr> <td>現金及び現金同等物</td> <td>197,580千円</td> </tr> </table>	現金及び預金	351,700千円	拘束性預金	154,120千円	現金及び現金同等物	197,580千円	<p>現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係</p> <table> <tr> <td>現金及び預金</td> <td>485,586千円</td> </tr> <tr> <td>拘束性預金</td> <td>169,156千円</td> </tr> <tr> <td>現金及び現金同等物</td> <td>316,430千円</td> </tr> </table>	現金及び預金	485,586千円	拘束性預金	169,156千円	現金及び現金同等物	316,430千円
現金及び預金	351,700千円												
拘束性預金	154,120千円												
現金及び現金同等物	197,580千円												
現金及び預金	485,586千円												
拘束性預金	169,156千円												
現金及び現金同等物	316,430千円												

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他	合計
	リモート メール事業	コンテンツ 事業	テレマーケ ティング 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	362,103	19,568	144,688	526,361	4,222	530,583
セグメント間の内部売上高 又は振替高						
計	362,103	19,568	144,688	526,361	4,222	530,583
セグメント利益又は損失( )	121,809	9,112	63,412	176,108	1,925	178,034

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に過去に発売した家庭用ゲーム機向けパッケージソフトのリピート受注販売等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	176,108
「その他」の区分の利益	1,925
全社費用(注)	125,240
四半期連結損益計算書の営業利益	52,793

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他	合計
	リモート メール事業	コンテンツ 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	361,941	28,673	390,614	3,470	394,085
セグメント間の内部売上高 又は振替高					
計	361,941	28,673	390,614	3,470	394,085
セグメント利益又は損失( )	102,015	5,241	96,773	554	97,327

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に過去に発売した家庭用ゲーム機向けパッケージソフトのリピーター受注販売やテレマーケティング事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	96,773
「その他」の区分の利益	554
全社費用(注)	56,696
四半期連結損益計算書の営業利益	40,631

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

従来、報告セグメントとしておりましたテレマーケティング事業は、第1四半期連結累計期間より、「その他」に区分変更しております。これは前期中において事業を縮小したことにより、重要性が低下したことによりです。なお、当第2四半期連結累計期間の「その他」に含まれるテレマーケティング事業の売上高は154千円、セグメント損益は、762千円の損失であります。

#### 4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

##### (金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

##### (有価証券関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

##### (デリバティブ取引関係)

当社グループはデリバティブ取引を行っていないため、該当事項はありません。

##### (企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
(1) 1株当たり 四半期純利益金額	15円71銭	34円42銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	41,177	90,213
普通株主に帰属しない金額		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	41,177	90,213
普通株式の期中平均株式数(株)	2,621,665	2,620,985
(2) 潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益金額	15円49銭	
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(株)	36,586	
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		平成14年6月新株予約権 1,300株 平成15年6月新株予約権 380株 平成16年6月新株予約権 800株 平成18年6月新株予約権(取締役の報酬) 株 平成18年6月新株予約権(監査役の報酬) 株 平成21年10月新株予約権 株

(注) 当第2四半期連結累計期間における潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年11月10日

株式会社 f o n f u n

取締役会 御中

清和監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 南方 美千雄 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 藤本 亮 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社 f o n f u n の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成23年7月1日から平成23年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社 f o n f u n 及び連結子会社の平成23年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。